

## 事件現場の写真と説明

(特記以外は2007年1月16日(火曜日)に撮影)



1. 事件が発生した現場付近を階段横(4番線側)から見たところ。  
画面左寄りの柱(ごみ箱の上方)に「終日構内禁煙」の掲示(矢印 )、時計の奥にカメラ(矢印 )が見える。  
半沢は、このごみ箱と、その右奥に見えるベンチとの間で脅迫・暴行を受けた。  
駅員は、その間、半沢の横(画面で左側)に終始無言で立っていた。



2. 写真 の反対側から現場を見たところ。  
脅迫・暴行犯は、携帯電話を操作している男性が座っている場所で喫煙していた。



- 3 . 写真1で示したカメラ（矢印 ）を近くで見たところ。  
ホームの向こう側に見えるのが、現在も手動式で残る「神宮前1号踏切」。  
半沢は、この踏切の安全管理体制の調査のために同駅を訪れて、この事件に巻き込まれた。



- 4 . 7000系車両（パノラマカー）の前頭部。  
この形式の車両は2009年までに全廃された。



5 . 7000系車両の最後部車両。

先頭車の最前（後）部を客席としている構造上、車掌台（矢印 ）が隣の車両との連結部寄りに設置されている。脅迫・暴行犯は、この車掌台最寄りの乗降口（矢印 ）から乗車し逃亡した。

写真の回送列車は6両編成。脅迫・暴行犯が逃亡した際に乗った4両編成列車では、車掌台とその最寄り乗降口は、ゴミ箱付近の柱と階段との間付近に停車する。



6 . 7000系パノラマカーの最後（前）部車両の車内。

車掌台と客室との間には仕切り壁がない。

したがって、脅迫・暴行犯が逃亡のために乗り込んだ列車の車掌が、半沢が車掌台最寄りの乗降口から乗り込んだ脅迫・暴行犯を指差して「この人、私に暴力を振るいました」と叫んだ相手が誰のどこを確認するのは、混雑度にもよるが基本的に可能な

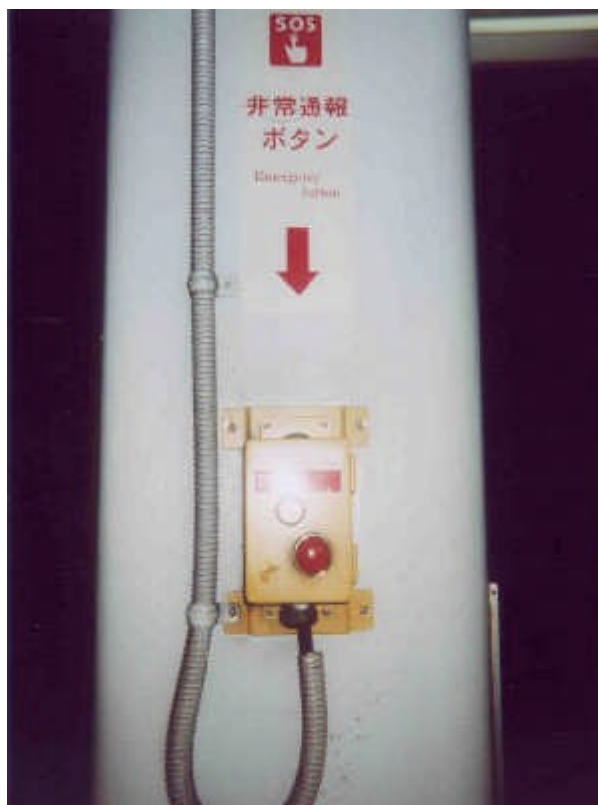
はずである。

写真6の撮影データ

2007年2月8日(木曜日)

名古屋10時14分発快速急行豊橋行き

車両番号 モ7008(製造年・車両メーカー名は失念)



7. 写真2で矢印として示した非常通報ボタン。

ボタンを取り付けた黄色い箱の上部には「ホームから転落時などの緊急時にこのボタンを押してください。」(白地部分に赤文字)「緊急時以外は押さないでください。」(赤地部分に白抜き文字)と記されている。しかし、前半のような文言では、犯罪者が電車に乗って逃亡するのを阻止したいときにもこのボタンを使用してよいのかどうかははっきりしない。「など」というあいまいな表現にとどめておくことで、鉄道事業者がその時々都合でどちらにでも主張できる余地を残しているように解釈できる。

ちなみに、この「非常通報ボタン」は、2001年1月26日にJR東日本山手線新大久保駅で発生した、ホームから転落した酔客を助けようとして線路内に飛び降りた韓国人留学生が列車にはねられ死亡した事故の再発防止策として、全国の鉄道事業者が整備したもの(名称は「緊急停止ボタン」など鉄道事業者により異なる)。しかし、この装置の存在を利用者に周知する駅貼りポスターなどで、このボタンを犯罪者の逃亡の阻止にも使用することを認めているものは、全国的にも見当たらない。

なお筆者は、事件発生当時には、ここに非常通報ボタンがあることに気づかなかった(写真撮影のため再訪したとき初めて気づいた)。